

インターバンクの声（2017年11月22日）

東京市場とニューヨーク市場が23日にともに休場となるためか、為替市場は早くも様子見モードに入っているようだ。ドル円はニューヨーク市場で一時112円18銭まで下げたものの、112円台中盤を中心とした値動きが続いている。

ユーロはドイツの連立協議の決裂を受けてドイツ政局の先行き不透明感が重しとなり、1.17ドル台中盤では上値が抑え込まれている。ポンドはEU離脱交渉でEUから要求されている「手切れ金」の増額に合意したと報じられて100ポイントほど上昇した後は上値を追う勢いがなくなってしまった。

今晚のニューヨーク時間に前回の米FOMC議事要旨が発表され、明日はECB理事会の議事録が発表される。ともに市場の注目度は低くはないが、休日前とあって内容によほどの驚きがないと相場の反応も限られそうだ。

ドルは引き続き米金利の変化に対する感応度が強く、米国の企業の多くが11月末と12月末に年度末を迎えることから、そこで生じる資金需要の変化による為替の影響には注意が必要だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。